

地域サッカークラブ経営の新しい方針を示し日本とアジアのサッカーを世界レベルに押し上げる

FC Ryukyu Coin



WHITE PAPER

FC RYUKYU SOCIO IEO ホワイトペーパー

INDEX

1. FC琉球のビジョン	3
VISION OF FC RYUKYU	
2. 地域サッカークラブの課題と原因	6
ISSUES ON REGIONAL FOOTBALL CLUBS	
3. 独自トークンを用いた課題解決	8
SOLVING ISSUES WITH FCR COIN	
4. トークン「FC Ryukyu Coin (FCR)」の発行について ...	14
TOKEN ISSUANCE	
5. トークンセールについて	17
TOKEN SALE	
6. プラットフォームとしての今後の取り組み	19
FUTURE INITIATIVES AS A PLATFORM	
7. プロジェクトチーム／アドバイザー	20
PROJECT TEAM & ADVISERS	
8. コミュニティ	22
OUR COMMUNITIES	
9. 留意事項等	23
DISCLAIMER	

1

FC琉球のビジョン

VISION OF FC RYUKYU

1-1. FC琉球のビジョン

ファン・サポーターとサッカークラブの関係性をアップデートし、現代のサッカークラブ経営の新しいスタイルを示すことで、日本とアジアのサッカーを欧州や南米に並ぶものにする。

沖縄発の日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に所属するサッカークラブFC琉球(運営:琉球フットボールクラブ株式会社)は、「FC RYUKYU SOCIO」というファン・サポーター、選手及びサッカークラブの関係性をアップデートするプラットフォームサービスを立ち上げます。FC RYUKYU SOCIOは、琉球フットボールクラブ株式会社(以下「当社」といいます。)により発行されるFC Ryukyu Coin(以下「FCRコイン」といいます。)の活用を通し、ファン・サポーター、選手及びサッカークラブの関係性の向上のための各種機能、将来的にはいわゆる地域通貨としての決済機能、など様々なサービスを提供するプラットフォームです。

FC琉球は、そのホームである沖縄の歴史から習い、日本とアジアを繋ぐ存在となってサッカー市場をより発展

させていく仕組みとして、FC RYUKYU SOCIOを自ら創り出します。これによりアジア中の地域サッカークラブが持つサッカークラブ経営の課題を解決していきます。アジアのサッカーは、その市場規模、競技レベルにおいて、未だ欧州や南米に及びません。そこで、日本がアジアとより深く繋がり、強化、普及、教育を推進していくことで、アジアのサッカーを欧州や南米に近いポジションまで押し上げていくことをビジョンに見据えています。

日本を含めたアジアサッカーがより発展していくための土台となる、ファン・サポーターとチームの協力体制の構築とその相互発展を目的として、FC琉球が中心となり、FC RYUKYU SOCIOを沖縄からアジアへと広げていきます。



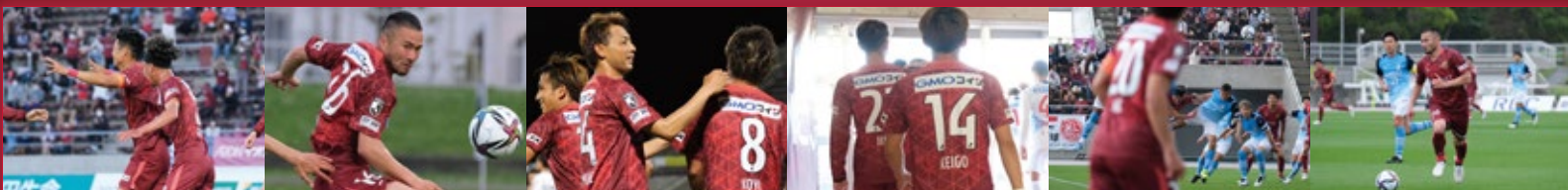
1-2. FC琉球とは



沖縄とともに、強くなる

FC琉球は、2003年に沖縄初のJリーグ参入を目指すサッカークラブとして発足し、2006年には沖縄県のクラブとして初の全国リーグ(JFL)に昇格。そして2014年には念願の日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)加盟を果たしました。幾度の経営危機を乗り越えて、2016年に現在の経営体制となってからは攻撃的でエキサイティングな「琉球スタイル」のサッカーを確立。

2018年には、J3リーグ史上最速での優勝を実現させて、J2昇格を果たしました。2019年は初のJ2リーグにおいて開幕5連勝、ホーム無敗記録の樹立を成し遂げ、最終的にはJ2リーグ14位。2020年・2021年はCOVID-19(新型コロナウイルス)の影響を受けながらも、勝ち点を積み上げてそれぞれJ2リーグで2020年16位、2021年9位と着実に成績を伸ばしております。



トップチーム成績

2018年: 明治安田生命 J3 リーグ … 優勝1位(17チーム中) / 勝ち点 66(20勝 6分 6敗 70得点 40失点)
 2019年: 明治安田生命 J2 リーグ … 14位(22チーム中) / 勝ち点 49(13勝 10分 19敗 57得点 80失点)
 2020年: 明治安田生命 J2 リーグ … 16位(22チーム中) / 勝ち点 50(14勝 8分 20敗 58得点 61失点)
 2021年: 明治安田生命 J2 リーグ … 9位(22チーム中) / 勝ち点 65(18勝 11分 13敗 50得点 47失点)

アジアの中心に位置する沖縄を拠点とするサッカークラブとして成長していくため、チームのJ1昇格達成に向け、以下のように積極的な活動を行っています。

- 育成の柱となるFC琉球高等学院の設立(2018年)
- 元日本代表レジェンドの小野伸二選手の獲得・年間スタジアム動員数10万人達成(2019年)
- 台湾サッカー協会(CTFA)との包括的パートナーシップ契約締結(2019年)
- 財務体質の改善が評価され、クラブ創設16年目で初のJ1ライセンス獲得(2019年)
- ベトナム1部リーグ所属サイゴンFCとのアジアストラテジックパートナーシップ契約締結(2021年)
- 八重瀬町の全面的な協力のもと練習場・クラブハウスの完成(2022年)
- 空港から好アクセス的那覇市への新サッカー専用スタジアム実現に向けた活動

那覇市中心市街地へのJ1規格スタジアムの整備基本計画が沖縄県より公表され、サッカーを通じた更なる経済発展が期待されています。



サッカークラブで重要とされるアカデミー部門においては、指導スタッフを再編・強化し、選手育成にも力を注いでいます。県外チームとの対戦が限られるという沖縄特有の事情の中、上下のカテゴリー間の飛び級を積極的に行うことやJリーグのゲームカリキュラムを利用し、選手の個人能力の強化に重点を置く指導方針で、2020年にはU-15日本代表選手、そして2022年はU-17日本代表選手を輩出しました。

2022年、アカデミー内のトップカテゴリーであるU-18チームは、沖縄県1部リーグから九州プリンスリーグへの昇格を目指し、着実に沖縄県内のサッカーレベルを引き上げています。

沖縄の地政学的な優位性から、Jリーグのアジア戦略室とも協働してアジア戦略を積極的に推進しています。2019年には台湾サッカー協会と、2021年はベトナムのサイゴンFC（V1リーグ）と、それぞれパートナーシップ契約を締結し、タイのU-23代表シティヨーク・パソ選手を期限付き移籍で獲得。アジア選手の受入れは勿論、指導者育成、チーム交流を積極的に行い、アジアのサッカークラブと接点を増やしていくことで、アジアにおけるFC琉球の存在感を高めていきます。



2022年シーズン トップチームの選手・スタッフ



2022年 FC琉球アカデミー U-18 メンバー

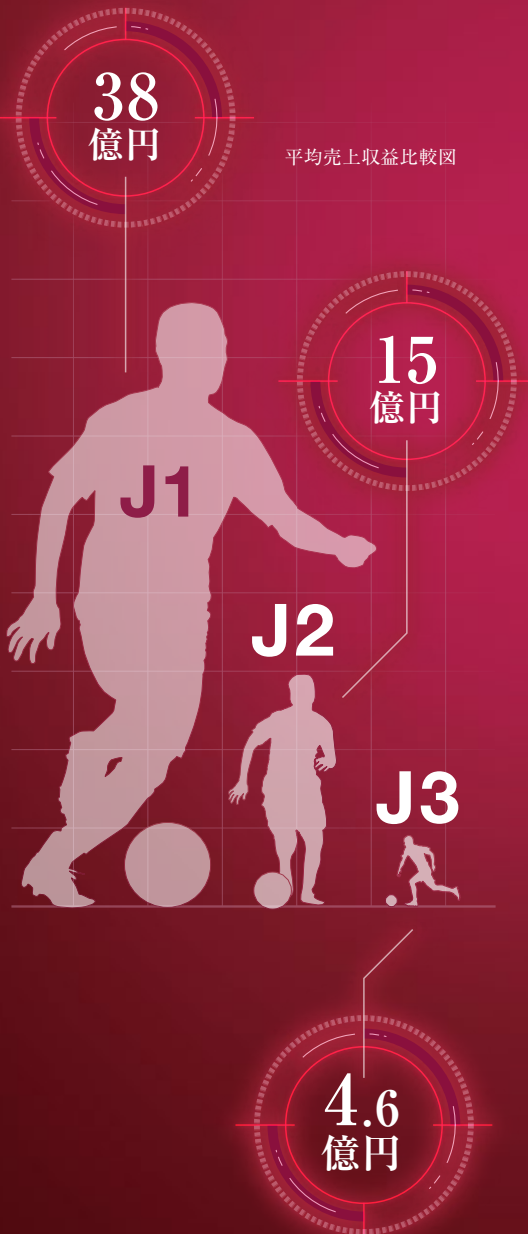
2

地域サッカークラブの課題と原因

ISSUES ON REGIONAL FOOTBALL CLUBS

2-1. 課題1／運営資金の確保について

深刻化する資金問題



サッカーはファン・サポーター、地域に夢や希望を与える一方で、サッカークラブの運営は大手企業（責任企業）の手厚いサポートがあるサッカークラブを除き、どのサッカークラブも共通してその運営のための資金確保に関して大きな課題を持っています。特にCOVID-19（新型コロナウイルス）の影響を大きく受けた2020年～2022年シーズンにおいては、数多くのサッカークラブが財政的に厳しい状況に立たされています。

前提として、多くのJリーグ所属のサッカークラブは株式会社によって運営されますが、その資金調達方法には事実上制限があります。その最たる例として、IPO（株式公開）が実質的に困難であるという点が挙げられます。そのため、通常の株式会社のように多くの人々から資金を募ろうにも、Jリーグ所属のサッカークラブの資金調達は、スポンサー企業による支援（第三者割当増資等）やクラウドファンディング等の方法に限られます。

特に、地域密着型のチームとして運営されるサッカークラブにとって運営維持のための地元スポンサーの獲得は必須のものであり、その地域のファン・サポーターとスポンサー企業の下支えを受けて活動しています。このような地域密着型のクラブは、実質的な親会社とも言える大手スポンサーを持つクラブとは資金面で大きな差があり、真正面からぶつかってもビッグクラブに太刀打ち出来ないことから、独自のスタイルを確立し対峙していく必要があります。また、FC琉球が所属するJリーグにおいては、そのトップリーグであるJ1リーグのチームと比べ、その下部リーグとなるJ2、更にJ3やアマチュアクラブに所属するクラブチームはその将来性があるにも関わらず、総じて資金の問題が深刻化している現状があります。実際J1平均売上収益は約38億円、J2は約15億円、J3は約4.6億円。J1とJ3では8倍以上の差となって現れています。（2020年度データ）。

サッカークラブ運営を維持していくためのスポンサー企業への営業やコミュニケーションなど、その資金獲得にサッカークラブが疲弊していくことは、本質的なチーム強化が後回しになることを意味します。選手やサッカークラブ社員への十分な報酬も支払えない過酷なサッカークラブ運営構造を解決していくことはアジアサッカーの発展をはじめ、そのロールモデルとなるべき日本においても欠かせません。

2-2. 課題2／ファン・サポーターによる支援方法について

前述の通り、IPO（株式公開）が実質的に困難であるなど資金調達方法が制限される結果、Jリーグ所属のサッカークラブの応援をしたいファン・サポーターの人々はその株式を購入できないなど、ファン・サポーターによるJリーグ所属のサッカークラブの支援方法は事実上制約を受けます。

そのため、資金面で支援ができる高い熱量を持つファン・サポーターとサッカークラブの間にニーズのミスマッチが起こっている状況があります。

このような状況に対し、従来のようなファン・サポータークラブへの加入、グッズ購入、試合観戦などの

サポートによる支援に感謝しながらも、ファン・サポーターと選手及びサッカークラブがより深く繋がり、選手も含めてクラブに関連する全ての人々が継続的にモチベートされていく仕組みを実現することが必要と考えています。

また、スポンサー企業に頼らないと運営が立ち行かない構造ではなく、より分散化され流動性があり、かつ長期的な継続性のある支援を通して、安定性のあるサッカークラブ運営へと移行していく必要があると考えます。

2-3. 原因／根本的な構造について

これらの課題は企業オーナー型ではなく、地域密着型のサッカークラブ運営を基本としている今のJリーグ全体の構造からくる不可避なものです。

これはサッカーを日本に根付かせるため1991年のJリーグ発足時、地域に根を張り持続可能なサッカークラブ運営システムが模索された上で構築された仕組みであり、未だ課題はあるものの、そのおかげで今のJリーグがあります。日本におけるJリーグの盛り上がりを見ても分かる通り、これまで十分に機能しているものでした。しかしながら、2022年現在、スマートフォンやソーシャルメディアが普及し、地域を超えた情報発信ができるようになりました。更にDAZNの参入などで、全ての試合が世界中で同時配信されるようになっていきます。

また、芸能人・スポーツ選手等の有名人だけではなく、それ以外の一般人が影響力を持つようになり、オンラインサロンなどのファンクラブビジネスは誰にでも構築可能となりました。更には、アセットを公に記録し移転できるブロックチェーン技術の普及もあって、あらゆる産業においてその価値や信用をどう再定義していくかが問われています。サッカークラブにおいてもそれは当てはまり、新しいファン・サポーターと

クラブの関係性を構築し仕組みをアップデートしていく必要性に迫られています。革新的なテクノロジーを活用することで、長年応援をしてくれたファン・サポーターとの繋がりをより強固にしていくだけでなく、FC琉球という価値を世界中に伝え、新たな共感を作り出すことも可能です。

チームが持つ現在の価値とこれからのポテンシャルを通して、ファン・サポーターとの間に繋がりを作り、さらにインタラクティブにコミュニケーションを推し進めていくことが運営の課題を解決し、市場をより大きなものにしていくと私たちFC琉球は考えています。

日本のサッカークラブ単独での暗号資産発行となるIEOは国内初の試みであり、プロスポーツ界にとっても新たな挑戦となります。プラットフォームに依存しない独自のトークンを発行することでFC RYUKYU SOCIOがより柔軟に構築され、今までなかったファンサービスを実現できると考えています。地域密着型のサッカークラブとしての本質を引き継ぎながら、選手及びサッカークラブがファン・サポーターと共に成長していけるFC RYUKYU SOCIOの仕組みを以下に解説します。

3

独自トークンを用いた課題解決

SOLVING ISSUES WITH FCR COIN



当社は、スポンサー企業を含むファン・サポーター、選手及びサッカークラブの三者間で独自トークンであるFCRコインを通じて価値を共有する仕組みを構築し、サッカークラブ運営の課題を解決する、FC RYUKYU SOCIOというプラットフォームを提供します。

FC RYUKYU SOCIOでは、FCRコインを用いた様々なサービスを提供することを予定しており、トークンエコシステムを活用したサッカークラブ運営のモデルケース作りを目指します。

また、現在、FCRコインの主な機能・用途として以下を予定しており、当該機能・用途等を通じてFC RYUKYU SOCIOの価値を構築することを目指します。

FCRコインの主な機能・用途等

- トークンパートナーとしての権利獲得
- 選手・チームに対するFCRコインの送付機能
- サッカークラブ運営における投票決議への参加権利
- FCRコインを用いた沖縄経済の活性化、及び選手育成の受け入れ等(将来的な機能として検討中)
- NFTを活用したデジタルコンテンツの購入(将来的な機能として検討中)

3-1. 用途1／トークンパートナーとしての権利獲得

FC琉球は、地元である沖縄の企業を中心にパートナー企業を持っていますが、今回のIEO (Initial Exchange Offering)を契機として、将来的には、アジア全体からトークンパートナーを募集する仕組みを設けることも見据えています。

FCRコインを保有する法人、個人等（総称して、以下「FCRコイン保有者」といいます。）のうち、一定数のFCRコイン保有者は、スポンサー規定に準じる形で「トークンパートナー」として試合時の紹介、公式サイトでのロゴ掲載、インタビューボードへのロゴ掲載など、その保有数量に応じて様々なパートナー証明を発行します。沖縄に根ざしたサッカークラブとして、県民、ファン・サポーター、地元パートナー企業を第一に考えつつも、サッカー市場の更なる発展のために、アジア代表のサッカークラブとして国内を始め、将来的にはアジア全体からもトークンパートナーを募集し、支援できる仕組みをFC RYUKYU SOCIO及びFCRコインを通じて構築します。

これにより国内のみならず、アジア中のサッカーファン・サポーターにFC琉球への注目が集まり、加えて、活動拠点である沖縄にも興味を持つ機会が増え、

私たちのホームである沖縄もより活性化させることに繋がると考えます。トークンパートナーは、FC RYUKYU SOCIOで、スポンサー規定に基づいたパートナー証明としてのロゴや名前の掲載権を得ることができるほか、限定のグッズ、特別席へのご招待、選手との交流ができるファン・サポーターミーティングなど様々な特典をご用意しており、アップデートに伴いその内容を公開していきます。また、FCRコインの保有数500万FCR以上でプラチナトークンパートナー、50万FCR以上でゴールドトークンパートナーとしての優遇を受けられます（将来的に変更となる可能性がございます）。

トークンを通してサッカークラブを支援する仕組みはFC琉球が描く今後のビジョンのファーストステップとして位置づけています。ここで得た資金はFC琉球の強化に活用することで、FCRコインの価値と可能性をより大きなものとして次のステップに繋げていきます。

トークンパートナー特典



3-2. 用途2／選手・チームに対するFCRコインの送付機能

FC琉球が提供するプラットフォーム、FC RYUKYU SOCIOではFCRコインの送付機能を設けます。

コミュニティ内で使用できるFCRコインをファン・サポーターはお気に入りの選手へ送付することができるようになります。



ファン・サポーターは、FCRコインを購入し、例えば、ゴールを決めた選手、ファインセーブで魅せたゴールキーパー、移籍したばかりの選手、これから活躍を期待している育成選手など任意の選手に対して保有するFCRコインをチップのように送付し、選手のモチベーションアップに繋げることができます。

選手は、この送付されたFCRコインを通して自分の貢献度を可視化でき激励しあうことで、強いチームに

必要な競争心と団結力をより高めることができます。

FCRコインは、FC RYUKYU SOCIOを通じて、ファン・サポーターから選手・チームに送ることが可能です。選手とファン・サポーターがコミュニケーションを行う場面はこれまで多くありませんでしたが、この応援と感謝の気持ちをFCRコインに乗せて新たな関係性を作ることでチームとファン・サポーターの繋がりをより密なものとするビジョンを実現していきます。

3-3. 用途3／サッカークラブ運営における投票決議への参加権利

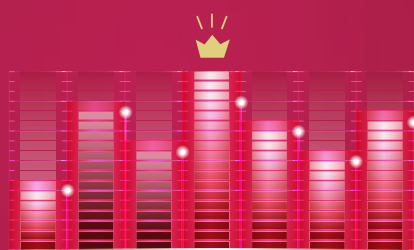
FCRコインの保有者はクラブチームの運営において誰でも意見を伝える権利を持つものとします。

サッカークラブ運営、グッズの選定、メディア露出など、FC琉球は今後あらゆるトピックに対してFCRコインと紐づけた投票(Poll)をFC RYUKYU SOCIO内で実施します。FCRコイン保有者はそれぞれに設定されたFCRコインを送付することで、誰でも投票(Poll)に対して回答でき、FC琉球の運営に関して自らの意思を伝えることができます。

投票事項に係る最終的な意思決定はFC琉球の運営メンバーで行いますが、FCRコインによる投票機能の活用を通して、国内やアジアからステーク

ホルダーの声を拾い集め、投票結果を意思決定に反映させていく仕組みを構築していきます。

FC RYUKYU SOCIOは、FCRコインを活用したプラットフォームとして、FCRコインと紐づいた投票の仕組みによりSOCIOネットワークをより拡張し、FC琉球の運営をより透明性のあるものとします。当社は、FC琉球の運営をオープンなものとし、ファン・サポーターとの関係性を再定義してアップデートしていくことで、世界中に開かれたサッカークラブ運営のモデルケースを目指します。



投票 (Poll)

- ユニフォームデザイン ●公式グッズ企画 ●ファン向けイベントの内容
- スタジアム入場時等の音楽 ●エキシビジョンマッチメンバー選考

ステークホルダーの意見収集



3-4. 将来的な展開：トークンを用いた沖縄経済の活性化と NFTを活用したデジタルコンテンツ購入の仕組みを検討

FCRコインは、
FC琉球の運営のみに活用されるのではなく、
沖縄経済の活性化にも利用できるものとしします。

沖縄地域の経済活性化の具体例として、トークンパートナーである企業（以下「トークンパートナー企業」といいます。）がFC RYUKYU SOCIO加盟店となることにより、当該企業が提供するサービスを受用できる価値をFCRコインに持たせる予定です。これによりFCRコイン保有者はその活用先が広がり、トークンパートナー企業は新たに顧客を増やせる機会を創出できます。トークンパートナー企業はサービスの対価として受け取ったFCRコインを活用しパートナーレベルを上げることで、FC琉球を通じた露出を最大化することができるようになります。

FCRコインを単なるFC RYUKYU SOCIO内における送金手段に留めるのではなく、沖縄の加盟店での決済手段に使用することにより、沖縄におけるいわゆる「地域通貨」として機能する役割を持たせるなど、FCRコインの価値の拡大も期待できます。

また今後の展望としてNFT (Non-Fungible Token) を活用して、FC RYUKYU SOCIO内でのみ購入できる画像や動画などのデジタルコンテンツの配信や、スタジアムでの特別なイベントやオンラインイベントへの参加チケットなどをNFTで発行し購入できる仕組みを検討しております。

NFTは非代替性トークンと言われ、「偽造不可な鑑定書・保有証明書付きのデジタルデータ」として、今までコピーや改竄を防ぐことができなかった画像などのデジタルコンテンツに対して、ブロックチェーン上で取り扱われるトークンとすることでコンテンツの価値を証明するものです。

取り扱うコンテンツなどは定期的に投票を通してトークンパートナーの皆様よりご意見を募集し、コンテンツの価値を共創していくことでファン・サポーター、選手及びチームにとって既存のファンクラブにはなかった取り組みも検討していきます。



FC RYUKYU SOCIO

～実現に向けて～



FC琉球は第一フェーズとしてFCRコインでの資金調達を行い、FC琉球の強化を進めながら、沖縄及びアジアの他チーム選手育成強化のために活用を広げていきます。私たちのプラットフォームであるFC RYUKYU SOCIOネットワークをアジア中に広げエコシステムを構築しながら、多くのサッカークラブ経営の課題である資金需要を満たす成果の実現に取り組んでいきます。

沖縄から国内チームへの展開後は前述したとおりアジアサッカーへの拡張と、長期的な視点で関係者とコミュニケーションを取りながら、FC RYUKYU SOCIOにおけるよりよいFCRコインの活用機能の普及に邁進していくものとします。その際のトークンの活用範囲や取り決めに関するコントラクトの一部は、FC RYUKYU SOCIOで行われる投票(Poll)を通してFCRコイン保有者の意見を踏まえて決めるものとします。

4 トークン「FC Ryukyu Coin (FCR)」の発行について

TOKEN ISSUANCE

4-1. 概要

FCRコインは、当社を発行者としてイーサリアムブロックチェーン上で発行される暗号資産です。FCRコインを用いた資金調達には、当社がGMOコイン株式会社（関東財務局長第00006号（暗号資産交換業）、以下「GMOコイン」といいます。）にその販売を委託し、同社を通じて販売する方法で行われます。

このように、トークンの発行者がトークンの購入を希望する個人又は法人（以下「購入希望者」といいます。）に対して直接トークンを販売するのではなく、発行者が暗号資産交換業者に対してトークンの販売を委託し、その暗号資産交換業者が発行者及びそのトークン等の審査を行った上で、当該トークンを購入希望者に対し販売する方式を「IEO (Initial Exchange

Offering)」といいます。したがって、購入希望者は、GMOコイン所定の登録手続きを行った上で、同社所定の販売規約等に従いFCRコインを日本円で購入することができます。

なお、FCRコイン保有者は、FC RYUKYU SOCIOの機能として、イーサリアムブロックチェーン上で、保有するFCRコインを第三者に送付できます。

FCRコイン保有者が、FCRコインを第三者に送付する場合、イーサ（ETH）を送付手数料（通称「Gas」といいます。）として、マイナー※に支払う必要があります。アドレスからの出し入れは、FCRコイン保有者が管理するウォレットを通じてなされます。

ティッカー	FCR	追加発行	予定なし
発行数	1,000,000,000 FCR	使用可能通貨	日本円

※ マイナー (Miner) とは、「マイニング (採掘) をする人」という意味です。暗号資産のマイニングとは、暗号資産を送金したり、受け取ったりしたデータを、ブロックチェーンに記録するための計算処理を行うことで、このマイニングをしている人々を「マイナー (Miner)」と呼んでいます。

イーサリアムブロックチェーン上で発行されるFCRコインは、ERC-20というイーサリアム独自の規格を採用したトークンとして、総供給量10億FCRが発行されています。

FCRで採用するERC-20という規格はイーサリアムブロックチェーン上で新しい暗号資産を発行する際の

代表的なトークン規格です。イーサリアムの基盤技術ともいえるスマートコントラクトにより履行履歴をブロックチェーンに記録していくことで正当性と透明性が保証されています。海外ではICOでの発行を含め、多くのトークンがERC-20で発行されているという実績があり、安定性も確認されています。

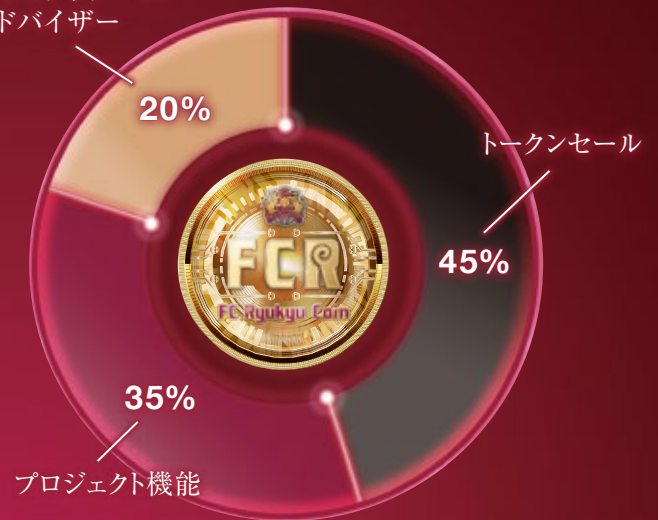
4-2. トークンの割り当て

FC RYUKYU SOCIOは総供給量10億FCRのうち、4.5億FCRをIEOプロセスの中で分配します。このプロセスで調達した資金は、FC RYUKYU SOCIOのエコシステム構築とFC琉球の強化、及びアジアのチーム・選手支援などに使用されます。

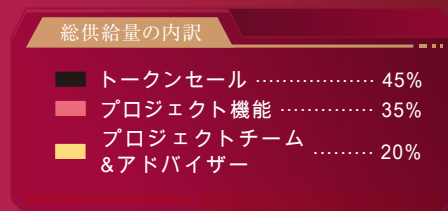
また、総供給量10億FCRのうち、3.5億FCRが長期的なビジョンとFCR経済圏発展のためにプロジェクトに戦略的に使用され、残りの2億FCRについては、プロジェクトチームやアドバイザーなどに割り当てられます。

プロジェクト機能として割り当てられる3.5億FCRについてはIEO実施後1年毎に7,000万FCRのアンロックを行います。配布は5年間で予定しており、その先もFC RYUKYU SOCIOのコミュニティ内での流通を目指します。プロジェクトチーム・アドバイザーに割り当てられる2億FCRについては、6ヶ月間のロックアップ期間を設けて(ただし取引所であるGMOコイン社への割り当て分は除く)、6ヶ月後に初回の配布を行い、その後は3ヶ月に一度の配布となっており、3年間で配布を完了する計画です。

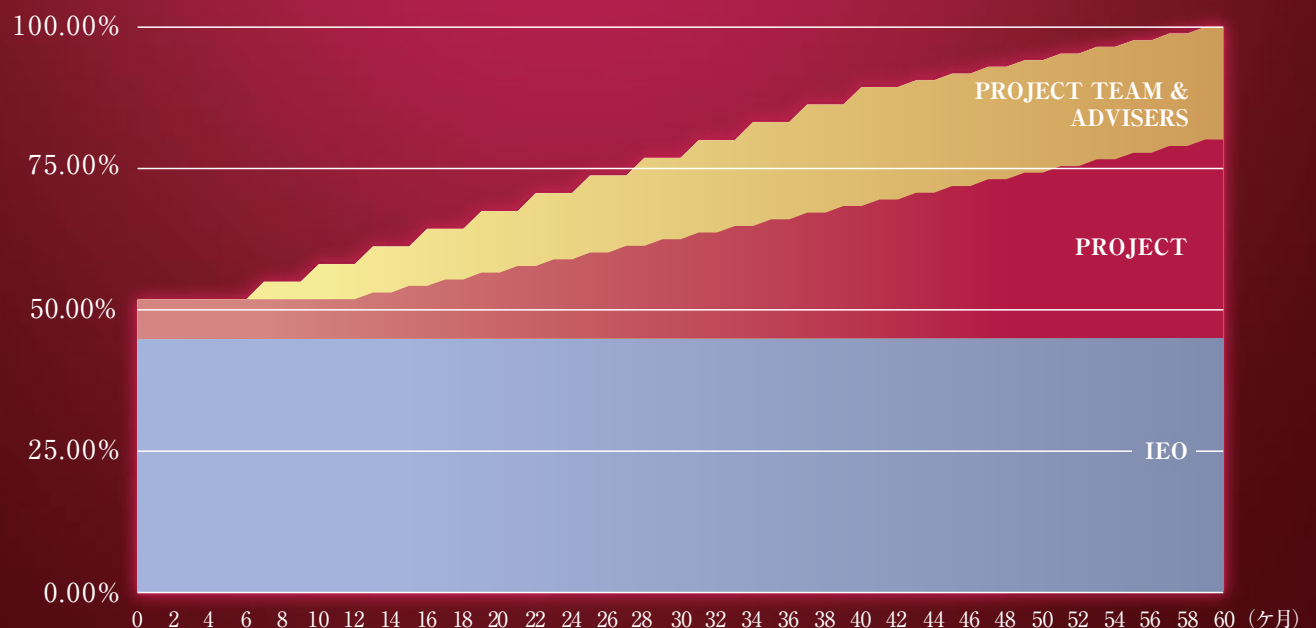
プロジェクトチーム
&アドバイザー



総供給量10億FCR



FCRコイン配布スケジュール



4-3. FC RYUKYU SOCIO経済圏への 貢献者に対するボーナストークンの配布

FC RYUKYU SOCIOでは、
独自の指標を基にFCRコイン保有者を評価し、
そのアクティブ率に応じて新たに一定数のFCRコインが無償で付与されます。
アクティブ率における指標としては以下の事項が含まれます。

- 投票回数
- 試合観戦
- グッズ購入
- FCRコイン送付(投げ銭)
- FCRコイン保有数

つまり、FCRコインを多く保有し、かつFC RYUKYU SOCIOをアクティブに活用するユーザーに対してはFC RYUKYU SOCIO経済圏を活性化させる活動の対価としてボーナストークンが無償で付与されます。上記に挙げた具体的な評価の方法及びボーナス

トークンの付与時期についてはいくつかの選択肢があり、仮説検証を繰り返しながら最終的に決定しますが、現状ではFCRコイン保有者のアクティブ率を考慮した上で、以下のようなイベント時においてボーナストークン付与を予定しています。

- FC琉球の勝利時
- 選手のゴール時
- 選手の移籍・獲得時
- シーズン開幕、リーグ優勝時など

また、一定数のFCRコインを長期保有していただいた場合にもボーナストークンの付与を検討しております。



この他にも様々なイベントに応じてトークンが付与されていくことで、FC RYUKYU SOCIO経済圏の活性化を行っていきます。

5

トークンセールについて

TOKEN SALE

5-1. IEOトークンセール概要

FCRコインのIEOプロセスでは、
一般の方も参加できるトークンセールを実施予定です。
なお、トークンセールによって調達された資金は、
FC琉球の運営・チーム強化（選手編成・補強）及び
イーサリアムプラットフォームを用いた
FC RYUKYU SOCIOサービスの開発・アップデート費用、
エコシステムの構築のために利用します。

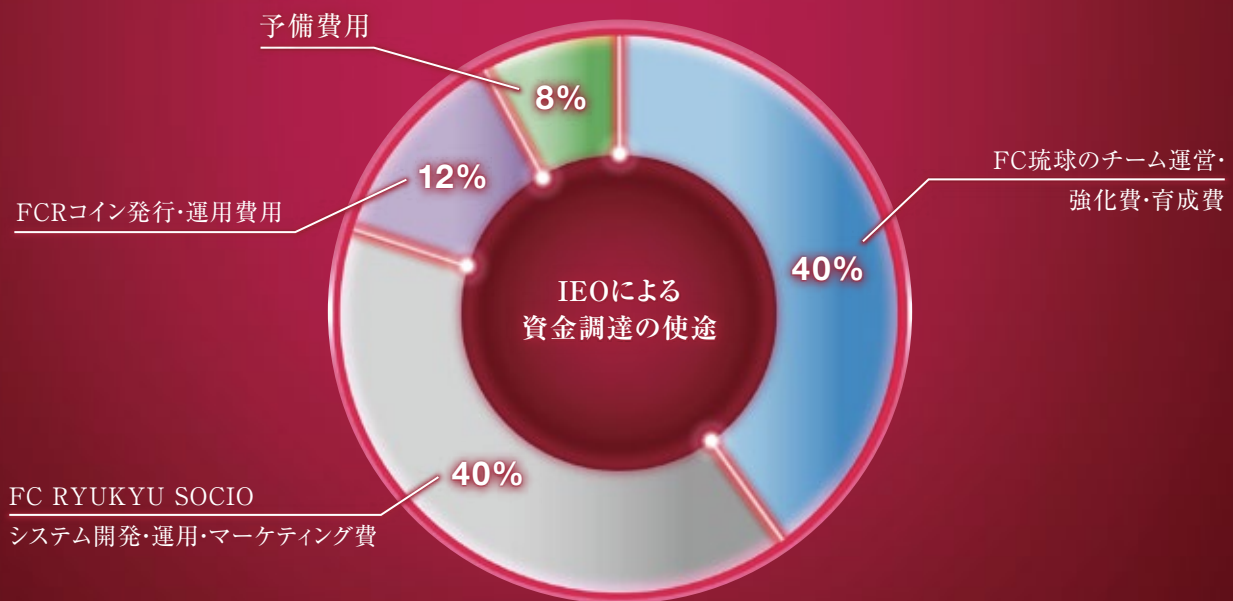
トークン名称	FC Ryukyu Coin (FCR)
発行主体	琉球フットボールクラブ株式会社
トークン規格	ERC-20
総発行枚数	1,000,000,000 FCR
IEO販売枚数	450,000,000 FCR
IEO販売価格	2.2円 / FCR
IEO申込単位	2,500FCR
IEO実施暗号資産交換業者	GMOコイン株式会社
販売方法	Initial Exchange Offering (IEO) 形式での販売*
購入対象者	GMOコインにて口座開設しIEO参加特設ページより申し込みを行ったユーザー
法的位置付	資金決済法2条5項1号が定めるいわゆる「1号暗号資産」
実施スケジュール	2022年4月27日より申し込み受付開始、2022年5月18日抽選配布を予定*

*詳細はGMOコインのホームページをご確認ください。

5-2. 調達した資金使途

今回のIEOによって調達した資金使途の内訳は以下の通りとしています。

40%	FC琉球のチーム運営・強化費・育成費 J1昇格を目指すFC琉球のクラブ運営、チーム強化（選手獲得）、アカデミー育成強化（FC琉球高等学院の奨学金制度の充実など）に活用されます。
40%	FC RYUKYU SOCIOシステム開発・運用・マーケティング費 FCRコインを活用したFC RYUKYU SOCIOアプリケーションの初期及び追加開発・運用・マーケティングによるユーザーの拡大、FCRコインを利用する新規加盟店やコンテンツ獲得などエコシステムの拡大に使用されます。
12%	FCRコイン発行・運用費用 FCRコインの発行・安定運用において必要となる暗号資産交換業者への発行手数料や法務・会計周り費用に使用されます。
8%	予備費用



なお、上記は売出数量を完売した場合の資金使途割合であり、最終的な資金調達額が確定した後の資金使途割合については以下の範囲内で変動する可能性があります。

- 35 - 45% : FC琉球のチーム運営・強化費・育成費
- 35 - 45% : FC RYUKYU SOCIOシステム開発・運用・マーケティング費
- 10 - 14% : FCRコイン発行・運用費用
- 6 - 10% : 予備費

6

プラットフォームとしての今後の取り組み

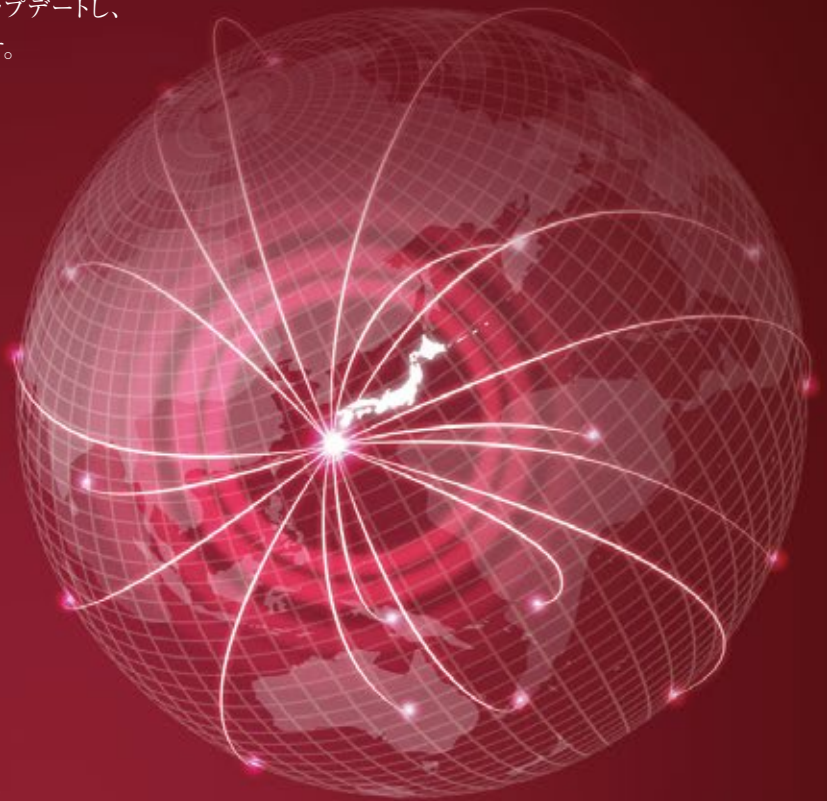
FUTURE INITIATIVES AS A PLATFORM

FC琉球は、FC RYUKYU SOCIOを通じて、ファン・サポーター、選手及びチームの関係性をアップデートし、地域サッカークラブ運営の課題を解決して参ります。

そして、FC RYUKYU SOCIOを通じてFCRコインの価値を実証した後は、沖縄を中心に、アジア中のサッカークラブへ門戸を開く等、他のサッカークラブによるFC RYUKYU SOCIOと同様のプラットフォームの導入をサポートして参ります。

具体的には、より課題レベルの高いチームから順にプラットフォームの導入をサポートし、5年以内に5チーム以上の活用を目指しています。

導入するプラットフォームについては、FC RYUKYU SOCIOの基本設計を引継ぎつつ、各サッカークラブの状況にあわせて必要なカスタマイズを行うほか、当該プラットフォーム上で利用される独自トークンの発行サポートや継続性のあるコミュニティ運用のためのノウハウ提供等も行なうなど、国内外のサッカークラブの発展に尽くします。



事業計画

	2021	2022	2023	2024	2025	2026
所属リーグ	J2	J2	J2	J1	J1	J1
目標順位	6位以上/ PO進出圏内	6位以上/ PO進出圏内	J2優勝	J1残留	J1残留	J1上位進出
想定クラブ営業収入	7億円	10億円 練習場・クラブハウス完成	14億円	16億円	18億円	21億円
FC RYUKYU SOCIO		FC RYUKYU SOCIO 立ち上げ 初期開発	追加アップデート 決済機能	加盟店募集開始	加盟店500店舗	加盟店1000店舗
提携クラブ		0	1	2	3	5

7

プロジェクトチーム / アドバイザー

PROJECT TEAM & ADVISERS

7-1. プロジェクトチーム



琉球フットボールクラブ株式会社

<http://fcryukyu.com>

本プロジェクトにおけるFCRコインの発行主体でありファウンダーを務めます。FC琉球のサッカークラブ運営を執り行います。



GMOメディア株式会社

<https://gmo.media>

GMOメディアは、インターネットメディア事業、ソリューション事業を行う、GMOインターネットグループの企業です。FC RYUKYU SOCIO の開発、運用を担当します。



FCR MARKETING

FCRマーケティング株式会社

<http://fcr-marketing.co.jp>

FCRマーケティングは2016年より、FC琉球の筆頭株主です。FCRコイン発行後は、FC RYUKYU SOCIOの企画、運営を担当します。



GMOコイン株式会社

<https://coin.z.com/jp>

GMOコインは、暗号資産の現物取引・証拠金取引等のサービスを提供する、GMOインターネットグループの企業です。FCRコインのIEOに伴う審査業務、FCRコインの募集・販売業務等を行います。



株式会社HashHub

<https://hashhub.tokyo>

2018年4月設立。HashHubは、ブロックチェーンを金融と広義のデータベース領域に大きな変化をもたらすインターネット以来のパラダイムシフトであるとして、新しい時代のコンテキストを作る企業として事業を行っています。本プロジェクトにおいては、FCRコインの仕組みのアドバイザーやホワイトペーパーのレビューアとして参画しています。



Ghost Note
Stingray

ゴーストノートステイングレイ合同会社

<https://gns.tokyo>

ゴーストノートステイングレイは新規事業やプロダクト開発支援を主に、Webサービスやアプリの企画開発運営を行う企業です。本プロジェクトにおいて、ホワイトペーパーの作成やFCRコインの発行、FC RYUKYU SOCIOの企画開発などのプロデュースを担当します。

7-2. アドバイザー



倉林 啓士郎

琉球フットボールクラブ (FC琉球) 代表取締役会長兼社長
兼 FCR マーケティング代表取締役社長

1981年生まれ。
2000年筑波大学付属駒場高等学校卒業後、2000年東京大学文科II類入学。
2003年(株)DeNAにてモバイル新規事業の担当を経て
2004年(有)グローバルトレーディング設立。
2006年フットボール事業を手がける株式会社イモ設立。運営するフットボールブランドsfidaは日本フットサルリーグや東アジアサッカー連盟(EAFF)公式スポンサーを務める。
2016年琉球フットボールクラブ株式会社代表取締役に就任し、FC琉球の経営の中心を担う。



廣崎 圭

琉球フットボールクラブ (FC琉球)
代表取締役副社長兼スポーツダイレクター

1970年生まれ。
早稲田大学卒業後はエリス東京でプレーし、2001年にSC鳥取(現:ガイナール鳥取)へ移籍。
2005年に現役を引退して、SC鳥取で実行委員代理や強化部長を歴任。
2008年から日本サッカー協会(JFA)のマッチコミッショナー、
2014年からJリーグでマッチコミッショナーを務め、
2018年にJリーグマッチコミッショナー委員就任。2018年12月、琉球フットボールクラブ株式会社の取締役に就任。2019年より代表取締役副社長兼スポーツダイレクター。



長瀬 威志

アンダーソン・毛利・友常法律事務所

2001年3月 城北高等学校卒業 2005年3月 東京大学法学部(法学士)
2009年9月 最高裁判所司法研修所修了(62期)、アンダーソン・毛利・友常法律事務所入所
2013年7月 - 2014年6月 金融庁総務企画局企業開示課に赴任
2014年8月 - 2015年5月 米国University of Pennsylvania Law School (LL.M., Wharton Business and Law Certificate)
2015年9月 - 2017年9月 国内大手証券会社法務部出身
2017年10月 アンダーソン・毛利・友常法律事務所復帰
2021年1月 アンダーソン・毛利・友常法律事務所パートナー就任



金城 辰一郎

trevary株式会社 代表取締役社長

1987年生まれ。駒沢大学卒業後、web広告代理店を経て独立しNHKを始めとした企業へSNSマーケティング支援を行う。
2013年にBASE株式会社3人目メンバーとして参画IPOに向けた成長に貢献。
2016年に地元沖縄で起業。
2020年に東京に拠点を戻し自社プロダクトによる事業展開を進めながら
2021年よりweb3領域にフォーカスを定めYoursDAOプロジェクトを発足。
web3人材問題を解決するグローバルプロダクトの開発を行い
トークンセールに向けて準備を進める。



北澤 豪

1968年生まれ。中学時代は読売サッカークラブ・ジュニアユースに所属。修徳高校卒業後、本田技研工業株式会社に入社。海外へのサッカー留学・日本代表初選出を経て、読売クラブ(現 東京ヴェルディ)で活躍(J1 リーグ通算264試合)日本代表としても多数の国際試合で活躍した(日本代表国際Aマッチ 59試合)。03年現役を引退。
現在は、メディア出演の他、社会貢献活動にも積極的に取り組み、サッカーを通じて世界の子供達を支援できる環境作りを目指している。
(公財)日本サッカー協会理事、(公財)日本サッカー協会 フットサル・ビーチサッカー委員、(一社)日本障がい者サッカー連盟会長、(一社)日本女子サッカーリーグ理事、JICAオフィシャルサポーターとしてのさらなる発展・普及に向けての活動を定期的に行っている。



カレン・ロバート

プロサッカー選手 / 元日本代表

1985年生まれ。相レイソルJYを経て市立船橋高校へ進学。
2002年全国高校選手権優勝。2004年ジュビロ磐田入団。2005年Jリーグ新人王。
2010年ロアッソ熊本を経てVVVフェンローへ移籍。フェンローの1部残留に大きく貢献し、かつて本田圭佑がつけていた背番号10を背負う。
その後、タイ、韓国、インド、イングランドでプレーし2019年に引退。
現在は、千葉県で4つのスポーツ施設・2つのサッカークラブを運営するローヴァーズ株式会社の代表を務める。



安田 洋祐

経済学者 / 大阪大学大学院経済学研究科 准教授

1980年生まれ。2002年に東京大学経済学部を卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国のプリンストン大学へ留学して2007年にPh.D.を取得(経済学)。政策研究大学院大学助教授を経て、2014年4月から現職。専門は戦略的な状況を分析するゲーム理論。主な研究テーマは、現実の市場や制度を設計するマーケットデザイン。[American Economic Review]など国際的な経済学術誌に論文を多数発表。学術研究の傍らメディアを通して一般向けの情報発信や、政府での委員活動にも積極的に取り組んでいる。



廣井 康士郎

琉球フットボールクラブ (FC琉球) 取締役
兼 スタジアムアドバイザー

1970年生まれ。1993年立教大学卒業後、東京建物株式会社入社。
2000年米国ロウエンスタールグループ入社。
2001年英国ウエストミンスター侯爵家のプライベートカンパニーグループの駐日代表に就任。
2011年クラブナー・アジアパシフィック・リミテッド取締役に就任。
2016年Widewell Limited創業設立Chief Executive (現職)。
2019年琉球フットボールクラブ株式会社 (FC琉球) の取締役兼スタジアムアドバイザーに就任(現職)。那覇市でのJ1規格スタジアム計画推進を担う。



秋山 祐輔

株式会社SARCLE 代表取締役社長

1974年生まれ。中央大学卒業後、広告代理店にてサッカービジネスに携わり、小野伸二選手のマネージメントや、海外放映権の交渉、獲得業務に従事。
2006年FIFA選手エージェント資格を取得。エージェントとしての活動を開始。
2007年4月に(株)SARCLEを設立。選手仲介人として、日本国内に限らず、イングランド・ドイツ・スペインなどヨーロッパクラブとも、移籍交渉を実施し、数多くの海外移籍を成功させた。選手のブランディングにも強みを持ち、メディアコントロール、スポンサー契約の交渉も行うなど、アスリートの視点に立ったトータルマネージメント業務を行なっている。



品川 一治

トボガン代表取締役 / VVQ役員 / Crypto&役員

1967年生まれ。1993年渡米 ハリウッドの独立系スタジオ Apicot Entertainmentに俳優学校創設の企画及び運営に携わる。
1996年独立してKaz coordination inc.(現TobogganLA)を設立。
2010年クロスメディアを駆使したPR、マーケティング、コンテンツ制作を行う。
Toboggan Tokyoを設立。LAも社名変更。
2018年Toboggan Amsterdam, Toboggan Singapore設立。
2019年クリエイタースキルドVVQを設立し役員就任
2020年NFT、クリプトを主に扱うクリエイティブコンサルチームクリプト&を設立。

8

コミュニティ

OUR COMMUNITIES

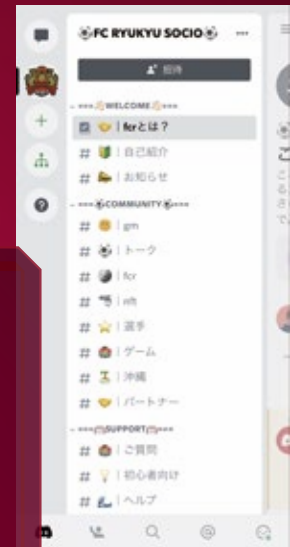
ティザーサイト



<https://fcr-coin.com/>

FCRコインのIEOについては、このホワイトペーパー(以下「本文書」といいます。)及びGMOコインのウェブサイトにて開示又は更新していくほか、以下の各種ソーシャルメディア上での情報を開示又は更新して参ります。

Discord



<https://discord.gg/fNSrH6WFHj>

FC RYUKYU SOCIO



<https://fcr-socio.com/>

FC RYUKYU SOCIOの開発状況を中心にFC琉球の関連情報を公開し、世界中のサッカーファン・サポーターとコミュニケーションをとって参ります。各種メディアにおける会話を通して新しい機能や改善案などの着想を得ながら、共創していくフレキシブルなプラットフォームを構築します。

Twitter



9

留意事項等

DISCLAIMER

9-1. 本文書に関する留意事項等

- (1) 本文書はFCRコイン及びFC RYUKYU SOCIOに係る情報提供のみを目的として作成されており、琉球フットボールクラブ株式会社の株式、特定の有価証券その他金融商品、又は暗号資産等の購入又は売却の推奨、勧誘等を目的とするものではありません。
- (2) 本文書は、FCRコインを購入するための提案や助言、又はFCRコインの購入を勧誘する目的として構成されたものではありません。また、本文書の内容は、投資家その他購入希望者の皆様の投資判断につながる根拠となる情報とはなりません。
- (3) 本文書は、FCRコインの販売及び購入に関して、契約や拘束力のある法的義務を課す書類ではありません。また、本文書に基づいて、暗号資産やその他の支払いを受け入れることはできません。
- (4) 購入希望者とGMOコイン間のFCRコインに係る売買契約は別途GMOコインが規定する利用規約に準拠するものとします。当該利用規約と本文書の間に矛盾が生じる場合は、利用規約が優先されます。
- (5) 日本を含む各国の規制当局は、本文書に記載されている情報の審査及び承認はしていません。いかなる法律や規制の要件、又は規則においても、同様に審査や承認は受けておりません。本文書の公開、配布、普及は、適用される法律、規制要件又は規則が遵守されていることを意味するものではありません。
- (6) 当社は、故意又は過失のない限り、本文書に記載された情報の誤り、漏れ又は不正確さから、直接的又は間接的に発生するあらゆる種類の損失及び損害に関する責任を負わないものとします。
- (7) 本文書内の記載は予告なしに変更されることがあり、当社は、本文書内に含まれる情報を更新する義務を負うものではありません。
- (8) 本文書の著作権は、当社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。
- (9) 本文書は英語に翻訳され公表されることがありますが、双方の内容に矛盾が生じる場合には日本語版のホワイトペーパーを優先するものとします。

9-2. FCRコインに関する留意事項等

- (1) FCRコインは、本邦通貨又は外国通貨ではありません。また、特定の国家又は特定の者によりその価値が保証されているものではありません。
- (2) FCRコインは、何かの所有権や持ち分、株式やこれに類する権利、又は将来の売上の一部を受け取る権利、知的財産権、また当社又はその関連会社に対するいかなる形式による参加に係る権利を表章するものではなく、又これらの権利を付与するものでもありません。FCRコインは、前払式支払手段、有価証券、コモディティ又はその他のあらゆる金融商品としても設計されておりません。なお、当社は、将来、FCRコインを、暗号資産交換業者において取引できるようにする権利を留保しますが、そのような義務を負うものではありません。
- (3) FCRコインに表示される権利に係る債務者が破綻した場合には、当該権利が棄損するリスクがあります。
- (4) 国・地域における法令、その他の規制により、当該国・地域において利用又は保有が制限される場合があります。
- (5) FCRコインの発行者や管理者等の破たん、当該FCRコインに係るFC RYUKYU SOCIO等のプロジェクトの失敗等又は当該FCRコインの移転等の仕組みを支えるコミュニティの崩壊等により、FCRコインの消失や価値の減少、FCRコインの移転が不可能となるといった事態が生じる可能性があります。また、これらの要因やその他の理由等に起因し、最悪の場合はFCRコインの価値がゼロとなる可能性もあります。
- (6) 暗号技術を用いて移転を記録するFCRコインの場合、暗号化されたデータを復号するための情報を喪失した場合には、他者に移転することができず、その価値が失われること、及び、当該情報を他者に知られた場合には、FCRコイン保有者の意思に関わらず移転されるおそれがあります。
- (7) FCRコインの価値は、その需給、市場全体の需給、法定通貨及び金融商品市場の動向等により価格が変動します。また、新たな法規制や、規制当局の動向も価格の変動につながる可能性があります。このような価格変動の結果、FCRコインの価格が下落し、損失を被る可能性があります。最悪の場合は、FCRコインの価値がゼロとなる可能性もあります。
- (8) 将来的に法令・税制等が改正される可能性があります。将来的に、法令、税制または政策の変更等により、FCRコインの保有・利用・取引その他取扱いが禁止、制限または課税の強化等がなされ、結果として、FCRコインの保有・利用・取引その他取扱いが制限される可能性があります。その場合、FCRコイン保有者等に予期せぬ損失が生じる可能性があります。
- (9) FC RYUKYU SOCIOは現在企画段階であり、リリース前に大幅な内容の変更が行われる可能性があります。設計時及び実装計画の変更やFC RYUKYU SOCIOの構築又は実行を含む様々な理由により、FCR等の形式及び機能に関する期待は、FC RYUKYU SOCIOリリース時に満たされないことがあります。
- (10) 上記留意事項は、典型的なものについて概要を説明するものであり、FCRコインに生じる一切のリスク等を漏れなく示すものではありません。FCRコインが法定通貨の仕組みとは異なること、様々な予期せぬ事象によるリスク等が起こり得ること、その結果、FCRコイン保有者等が損失を被る可能性があることを、予めご認識ください。

更新履歴

2022年 4月 ver1.0公開